

事例8

< 事例概要 >

- ・ 70 歳代の患者。下腹部痛、嘔気、嘔吐、硬便で夜間に救急受診。
- ・ 担当医師の診察時、下腹部痛、嘔気、嘔吐あり。腸閉塞の確認目的で立位腹部X 線撮影を依頼。
- ・ 相談した消化器内科医師と 2 名で画像を確認。腸閉塞の所見なしと判断。疼痛は自制内で状態も安定しているため帰宅を指示。その後、帰宅までの間に嘔気、嘔吐あり。画像検査から 12 時間後に死亡しているところを発見。
- ・ 死因は S 状結腸癌穿孔による敗血症。死亡時画像診断 (Ai) 無、解剖 有。
- ・ 画像診断報告書 無。
- ・ 腹部X 線写真で横隔膜下の遊離ガス像を疑う所見を認めた。